

平成30年度第2回ゼニガタアザラシ科学委員会
議事概要

平成31年1月28日(月) 13:00~16:00

会場：北海道地方環境事務所会議室

議事1. 平成30年度事業の実施結果について

○事務局より、資料1-1、資料1-2、資料2に基づき説明。被害防除対策
個体群管理の結果について、動画も参照してもらいながら説明。

◆主な意見等

【格子網について】

・格子網を自主的に導入している網が何ヶ統があるかデータや情報が欲しい。

→環境省から業務として設置をお願いしているのは春1ヶ統、秋1ヶ統のみ。資料2表
1にある残りの東洋1、岬2、庶野2ヶ統は自主的に付けている。(事務局)

・16cmの格子網を使った時が一番効果を感じる。

→現在は昨年度の結果から18cmを主に配布している。16cmは漁獲量が減る懸念も
あるが、漁業者の希望に応じて16cmも用意する。(事務局)

【忌避装置試験について】

・忌避装置試験の被害記録(資料2 図8)について、10月11日に被害割合が大きい
とのことだが、その前も大きいように見える。

→9月22日から10月10日までは一旦忌避装置を外している。11日から稼働したの
で本来であれば11日も減っているはずだが、被害が出てしまった。漁業者からはオッ
トセイによる被害の可能性もあげられた。(事務局)

・ワッペンを付けている個体の雌雄やサイズのデータも補足的に入れた方がいい。

・漁獲尾数と被害割合を横軸と縦軸にプロットし、漁獲量に応じた被害の割合を示す。こ
れを忌避装置稼働時と非稼働時でグラフを作り比較すると分かりやすいだろう。

・忌避装置の生簀の実験結果を知りたい。

→3頭(成獣メス、亜成獣オス、幼獣雌雄不明)入れているが、初日からほぼ反応してい
ない。音圧は定置のものと同じなので生簀は近い分、音圧が高い可能性はある。(事務
局)

→音圧が高すぎて飽和状態になっているのではないか。→耳の悪い個体は聞こえないとい
う研究結果もある。

→グラフを見るとサケに忌避装置が聞いている可能性はないか。

→実験でサケに影響がないことを示した上で実施している。(事務局)

サケには影響はないように思う。

・どこかに忌避装置の周波数等のスペックを書くべき。

【捕獲・混獲について】

- ・放獣する際に熊でやっているようなお仕置きしてはどうか。
- 可能性はあると思うが方法は要検討。例えば電気ショックは船上では危険かもしれない。効果については可能性はあると思うが、やってみないと分からない。
- ・今までは混獲は幼獣が多かったと思うが、今年度は成獣、亜成獣が多いということは捕獲が幼獣に偏っている影響ではないか。

○事務局より、資料1-3に基づき説明。被害状況について。委員より、モニタリングについて説明。

◆主な意見等

- ・コマイが多いがサイズが気になる。コマイやミズダコを食べているなら定置には関係ない。
- 復元を行った後に報告する。
- ・CRIを春と秋に分けるべき。
 - ・75kg前後で性成熟と言っていたが、何歳くらいか。
- 年齢査定をしないとわからない。
- 以前は3歳くらいで黄体があったものもあったので、全部やってみないとわからない。
- 50kgでも当歳の個体もいる。2歳で性成熟する個体も中にはいる。全ての個体を調べる必要はあるが、若く性成熟する個体は体重も重いように感じる。過去のものも含め、性成熟年齢を出したいと思う。
- 春と秋で重量が違うなら、捕獲日もデータに入れるべき。

○事務局より、資料1-4に基づきモニタリング作業部会の結果を説明。

◆主な意見等

- ・幼獣に偏った捕獲の結果、秋の混獲の幼獣が減っているのであれば、なんらかの捕獲の効果があつたのだろう。それを踏まえて捕獲頭数を決めるべきだが、そこまで議論していないということか。
 - ・当歳の割合が多いのも、まだ推定で行っているのだから、大きさだけでは判断できない場合もある。
 - ・昨年、当歳ばかり獲ったことで、今年は1歳が少ないのか。これを続けていくと、どのくらいで次のことが見込めるのかも考慮すべき。
 - ・捕獲と混獲とどちらが加害個体か。
- サケを特異的に食べている個体は圧倒的に体重が重いので、定置の捕獲での個体が加害個体だと思う。混獲はスリットがあるので大きな個体は獲れない。
- ・（個体群シミュレーションのパラメータについて）11月の作業部会では、修正点があ

る可能性があるが、4月の次年度実施計画に間に合わなくなるので、暫定版でもいいので数字を出そうとなったと思う。

→次年度計画について以降の議事2で説明する。(事務局)

議事2. 平成31年度事業実施計画「暫定版」(案)について

- 事務局より、資料2に基づいて「実施計画(暫定版)」案を説明。委員より捕獲目安に関しての説明。
- 実施計画については、まずは「暫定版」として4月からの事業を進める。ただし、平行して行う次期管理計画の策定作業のなかで、シミュレーションの精度を上げたり、この先の方向性を定める議論を行い、その結果を踏まえ、31年度途中でも実施計画の改訂版を出し捕獲目安頭数を変更する可能性があるものとする。
- 資料2では次年度捕獲目安頭数を空欄にしているが、直前に行われたシミュレーションにより、示された捕獲目安頭数は40頭となった(平成28年当初(管理計画開始時)の生息数の8割とするために必要な捕獲数。混獲や自然死亡数は含まない)。

◆主な意見等

- ・3月の協議会では捕獲頭数は示さないのか。
- 4月から平成31年度実施計画にもとづき事業を実施するので、3月には「暫定版」として協議会で数字を示す必要がある。捕獲頭数を変更する必要があるれば年度途中でも改訂版実施計画を出す。
- ・40頭と数字を出した場合、獲り方が問題。定置網に執着する個体を優先的に獲るとはつきりと言えるのか。
- 定置網の捕獲網を中心に捕獲を実施する。(事務局)
- ・協議会の前に地元での合意形成を行うことをお願いしたい。
- ・来年度納得しても来年度以降も40頭固定では漁業者は納得しない可能性があるので、納得できるようにお願いしたい。地元に戻れば地元の感情がある。この事業を立ち上げたのも被害の軽減が前提で、それには捕獲も重要と考えている。
- 時期管理計画の策定にあたって、考えるポイントは主に2点。1つはシミュレーションの精度を上げるような科学的な観点からの見直し。もう1つは、生息数8割からもっと踏み込むかどうかといった方針の観点。31年度の早い時期にそれらの方向性は検討し、それを踏まえての31年度実施計画の改訂版を出す可能性はある。(事務局)
- ・漁業者はアザラシと共存したくないわけではないが漁業被害は減らしたいので、被害が減ってから捕獲数を減らしてほしいという意見が出ると思う。
- ・昨年度の混獲が少ない分を1年間上乘せすることがあり得ない話ではないと思う。最大でも混獲が少ない分までだろう。

→混獲は資源量に比例するので、資源量が減っていれば混獲数も減る（これは現在のシミュレーションにも反映されている）。混獲は偶然起こることなので、少ないからと言って翌年に逆の貯金を使う発想はない方がいいと考える。

- ・混獲の平均70頭に加えて40頭捕獲するということがいいか。

→混獲率を計算すると来年の混獲数の想定は58.44頭となる。捕獲数はこれとは別に40頭となる。

- ・漁業者が捕獲数を多くしてほしいのはわかるが、絶滅確率が10%以上になった場合は絶滅危惧種に逆戻りし全く捕獲できなくなるので、順応的管理をしたいと説明すべきでは。
- ・どのような個体を捕獲するかはとても大事。アザラシを獲る難しさを強調し、効率的に大型個体を捕獲していくということを、今一度地元にしっかり説明していただきたい。
- ・量的な管理はある程度行ったので、今度は質的な管理で被害軽減を計ることを強調する。漁業者が理解してくれる方法である必要がある。しっかりと強調して説明すべき。
- ・ヶ統ごとに被害の状況や対策の効果などもかなり違っているので、エリアごとではなく示し方を工夫すべき。被害が庶野地区にシフトしていることなども踏まえ次期管理でどうするのか、16cmの格子網の普及方法など、今後の被害対策に重要になってくるので、その辺りも記載し検討してほしい。

議事3. 時期管理計画改定に向けた作業の進め方について

○事務局より、資料3に基づき説明。

その他

○事務局より、参考資料に基づき科学委員会の設置要綱について説明。

◆主な意見

- ・前にも発言したが、被害状況を社会的な面でアンケート調査を行ってほしい。

→ご提案いただいた通りアンケート調査の準備を進めている。(事務局)

以上